

令和2年度第6回広島市社会福祉審議会高齢福祉専門分科会 会議要旨

1 開催日時

令和3年1月27日（水）午後6時から午後6時40分まで

2 開催場所

広島市役所本庁舎2階 講堂（ウェブ会議）

3 出席委員

山田知子分科会長、肥後井分科会副会長、川口委員、久保委員、高橋委員、田島委員、月村委員、永野委員、藤井委員、満田委員、森井委員、落久保委員、上土井委員、木村委員、高木委員、東谷委員、藤田委員、古本委員、村上敬子委員、村上須賀子委員、森川委員、山田晋委員、山中委員 計23名

4 事務局

健康福祉局長、高齢福祉部長、高齢福祉課長、地域包括ケア推進課長、介護保険課長、介護保険課事業者指導・指定担当課長

5 議 事

第8期広島市高齢者施策推進プラン（令和3年度(2021年度)～令和5年度(2023年度)）の策定に関する答申（案）について

6 公開状況

公開

7 傍聴人

0人

8 会議資料

資料1 第8期広島市高齢者施策推進プラン（素案）に対する市民意見について

資料2 第8期介護保険事業計画期間における第1号被保険者の介護保険料について

資料3 第8期広島市高齢者施策推進プラン（素案）からの主な修正について

資料4 第8期広島市高齢者施策推進プランの策定について（答申案）

参考資料1 広島市社会福祉審議会高齢福祉専門分科会委員名簿

9 会議要旨

(山田知子分科会長)

第 8 期広島市高齢者施策推進プランの策定に関する答申（案）について、事務局から説明をお願いする。

[事務局から、資料 1、資料 2 及び資料 3 に基づき説明]

(山田知子分科会長)

事務局から、第 8 期広島市高齢者施策推進プランの策定に関する答申（案）について説明があった。質問、意見等があれば挙手をお願いする。

(村上須賀子委員)

資料 2 の「2 公費負担額の変更」のところで、国の交付金が増額になったという説明であったが、85 歳以上又は 75 歳以上の高齢者の割合が高いことや所得の低い人の割合が高いことについて、広島市の場合、国が認めたと理解すればよいか。

(介護保険課長)

調整交付金については、国において、3 か年の計画期間の都度、全ての保険者について、高齢者の年齢構成の状況や保険料に影響する所得段階の構成比を把握した上で、調整を行っている。中間とりまとめで示したものは、今期（第 7 期）の計画期間中においての実績を基にしたものであるが、直近の状況を国が調査した結果、第 8 期については、この金額で計画を立てるように示されたので、それを反映したものである。

(村上須賀子委員)

全国を調査して、広島市がそういう状況になったということか。

(介護保険課長)

第 7 期と比べると、交付金を多く貰うべき状況になったということである。それは、広島市の状況が変わったからということよりも、全国の自治体を比べた時にということであって、広島市の状況が同じであっても、他の自治体の状況が変わっていれば、順位付けが変わってくるので、その影響によるものであると理解している。

(川口委員)

資料 1 の別紙「市民意見及び本市の考え方」の NO. 7 や NO. 11 で、担い手のことについて記載されている。特に、NO. 11 では、5 年 10 年後に、果たして担い手がいるのかというような聞き方がされている。「本市の考え方」のところで、高齢者いきいき活動ポイント事業や住民主体型生活支援訪問サービスについて記載してあるが、この質問をされた方は、本当にそれで担えるのかということを知りたい

のではないかと。この質問に対する明確な回答が、今回の答申案の中にはないのではないかとという印象を受けるが、市はどのように考えているか。

(高齢福祉課長)

この計画自体は3年のものであり、「本市の考え方」に記載しているとおり、これまで続けてきた、高齢者いきいき活動ポイント事業や住民主体型生活支援訪問サービスを継続して行っていくことで、担い手をまずは増やしていきたいと考えている。5年10年後を見据えた視点も大事であると考えているので、その点については、来年度以降、いろいろな事業を進める中で、必要な取組があれば新たに検討するなど、対応していきたいと考えている。

(川口委員)

やはりプランの中だけでは解決しないことや心配もたくさんある。第3回の分科会の後、意見を出させていただいたが、「自助」「共助」「公助」というような順序性ではなく、共助にしても、協働して助け合う、協働して生み出すというような持続可能な共生力みたいな力が、これから行政と民との間で生まれていかななくてはならないと考えている。地域共生社会実現計画の中にもそういったことが記載されてあったと思うが、これからの計画の中で、こういったところも長期的に考えていただきたいと思う。

(山田知子分科会長)

プランでは、2025年・2040年を見据えた地域包括ケアシステムの推進と深化という長期的な目標を掲げており、御指摘のあったような視点は非常に大事であると思う。

(山田知子分科会長)

それでは、この答申案を取りまとめることとしてよいか。

(村上須賀子委員)

高齢者がお互いに支え合うことがなかなか難しいので、担い手が少なくなる。私どもの大学には「健康スポーツ学科」があり、他の大学でもオリンピックの影響によりスポーツの学科が増えている。答申案19ページの「①健康づくりの促進」の上から二つ目の丸のところで、「地域や健康づくりに関わる団体・機関」とあるが、若者を取り込むということで、機関の中に教育機関も入れていただきたい。世代を超えて、高齢者支援を考えていく必要がある。

(山田知子分科会長)

答申案の取りまとめに当たり、村上（須賀子）委員から頂いた御意見の取扱いについては、分科会長に一任いただいた上で、全体会議の永野委員長と協議させていただくという形としてよいか。

(委員の異議なし)

(村上須賀子委員)

「健康スポーツ福祉論」という授業で、120人の学生に、高齢者施策推進プランの素案を例示して、広島市の健康づくりに関してどのようなことを提言できるかについて昨日締め切りでレポートを提出させている。また提供するので、参考にしていただければと思う。

(山田知子分科会長)

それでは、以上で本日の審議は終了する。